

津波浸水想定図〔姫路市〕(L2 津波)

<効果>

○堤内地の浸水をほぼ解消(207ha→5ha)

<津波対策>

- ①水門整備 1基
- ②防潮堤等の沈下対策 0.4km
- ③防潮堤の越流対策(基礎部の洗掘対策) 0.3km
- ④水門の耐震補強 5基

対策前

(条件)・門扉は開放
・防潮堤等は津波が越流した場合に破堤

対策後

(条件)・門扉は閉鎖
・津波対策は全て完了
・防潮堤等は津波が越流しても破堤しない
・沈下量の詳細検討結果等を反映



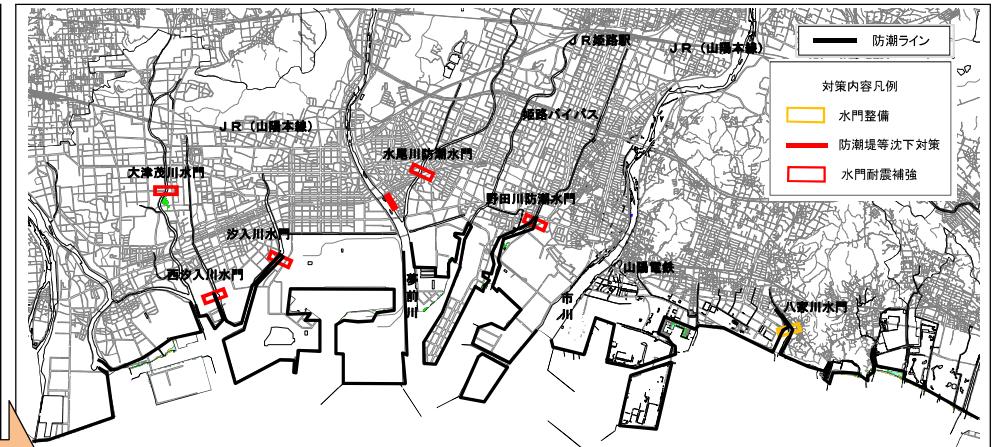
浸水面積(全体) 276ha
(うち堤内地) 207ha

0 1 2 3 4 km

浸水面積(ha)

凡例〔浸水深〕	浸水深		全体	うち 堤内地
	合計			
5.0m以上～	0	0	276	207
4.0m以上～ 5.0m未満	0	0	0	0
3.0m以上～ 4.0m未満	0	0	0	0
2.0m以上～ 3.0m未満	2	1	2	1
1.0m以上～ 2.0m未満	29	6	29	6
0.3m以上～ 1.0m未満	102	72	102	72
～ 0.3m未満	142	127	142	127

※避難対策に活用することを目的に作成した兵庫県津波浸水想定図 ケース 1 (H25.12公表)



浸水面積(全体) 74ha
(うち堤内地) 5ha

0 1 2 3 4 km

浸水面積(ha)

凡例〔浸水深〕	浸水深		全体	うち 堤内地
	合計			
5.0m以上～	0	0	74	5
4.0m以上～ 5.0m未満	0	0	0	0
3.0m以上～ 4.0m未満	0	0	0	0
2.0m以上～ 3.0m未満	0	0	0	0
1.0m以上～ 2.0m未満	24	微少	24	微少
0.3m以上～ 1.0m未満	30	微少	30	微少
～ 0.3m未満	19	4	19	4

※ハード整備の効果を確認することを目的に作成

【留意事項】

- ・最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から想定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ・実際の災害では、局所的な地面の凹凸や建築物、地震による地殻変動や構造物の変状等の影響を受けるため、計算結果と異なる状況が発生し、浸水域外での浸水の発生や、浸水深がさらに深くなる場合があります。
- ・整備の実施にあたっては、改めて地質調査等を実施して、工事区間や工法等を決定します。